

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター
住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1
愛知県東大手庁舎 1 階
TEL：052-954-6722
FAX：052-954-6993
開館：月～金 10～17 時



コメント：この春に家族で引っ越しました。

福島を思い出すような自然ゆたかな場所での生活が始まりました。

岡崎市在住 M さん

<表紙に掲載する私の 1 点、1 枚を募集しています>

あおぞらの表紙にあなたの作成した作品を掲載してみませんか？興味が湧いたらご連絡ください。

①作品のタイトル ②説明（30 字程度）③掲載するお名前 ④年齢 ⑤連絡先（氏名・メールアドレスまたは電話番号）を明記のうえ、メールまたは FAX、郵送にてお送りください。

<編集委員募集のお知らせ>

月に一度発行している「あおぞら」は、愛知県被災者支援センターのスタッフとボランティアの方がたで協力をして発行しています。あなたも編集委員になってみませんか？

<発送作業のボランティア募集>

定期便発送作業のボランティアに参加してみませんか？

※先月から定期便が月 1 回に変わっています。必要な情報については、別で臨時便として郵送させていただきます。

9 月 25 日便の予定			お問合せ・お申込み
封入作業	9 月 22 日（金）	午後	愛知県被災者支援センター
発送作業	9 月 25 日（月）	午前	TEL：052-954-6722（渡邊）

支援制度紹介①【岩手県制度】（いわて内陸避難者支援センター）

いわて内陸避難者支援センターは、東日本大震災により、岩手県内陸部や岩手県外へ避難している被災者の住まいの意向把握や、再建方法を決めかねている方への相談支援などを通じて、ご本人の意向に沿った形で恒久的住宅への移行を進めていくため活動しています。岩手県からの委託で、「特定非営利活動法人 インクルいわて」が運営しています。

①避難者への意向把握業務

岩手県内外に避難する世帯に対し、みなし仮設住宅の供与期間終了後の住まいの意向把握調査を訪問、電話、郵送により行っています。平成29年の3月末までに、岩手県内陸部の避難者世帯全戸への訪問、岩手県外に避難する世帯についても訪問を実施しました。

今後、応急仮設住宅の供与期間終了とともに、岩手県内外のみなし仮設に入居されている世帯の方については、現住居の自費による契約継続、または転居の必要が出てきます。住まいの意向を確定している世帯についても、希望に沿った状況で進捗しているか、確認のための連絡を実施しています。また、岩手県では、内陸部や県外に避難されている避難者世帯の方に向け、災害公営住宅を内陸部の各地域に建設する予定ですが、入居の可否によっても意向の方向性が変わる可能性があるため、相談も兼ね、意向把握のための訪問調査を継続して実施しています。

②相談支援業務

恒久的住宅への移行に何らかのお悩みがある避難者の方へ、訪問、電話などでの相談対応を実施しています。例として、被災者生活再建支援制度や社会福祉協議会の実施する生活福祉資金貸付などについて、ご紹介しています。また、住居を新築、または購入される

方については、ファイナンシャルプランナーとの相談をお勧めしたり、災害公営住宅についてのご案内など、生活状況にあわせた、無理のない再建に向けて、多様な専門家と連携をとりながら、対応しています。

また、訪問時に住居確保に向けて「生活が苦しい」ことをお聞きした際には、世帯の収入や家庭の状況をお聞きしたうえで、必要に応じて生活保護担当窓口への同行などの福祉利用の支援も実施する他、帰還する方や避難先に定住する方々を地域にある社会福祉協議会とも連携をしながら、転居後に孤立することの無いよう、見守り支援にもおつなぎしています。

居住支援は、個々人の生活全般に関連するため、多様で専門的な相談スキルが求められるため、当センターはアウトリーチを手段としながら、相談支援員は生活困窮、母子、消費生活、社会福祉士、精神保健福祉士、教育、家計支援、被災者支援等スキルを持った職員で構成し、伴走型のワンストップ支援を実施しています。



<相談対応の様子> <みなし仮設へ戸別訪問>

問い合わせ：いわて内陸避難者支援センター

住所 〒020-0063 岩手県盛岡市材木町 3-5

開所時間 9：00～17：00（月～土 ※祝日、年末年始を除く）

TEL 019-601-7640 FAX 019-601-7641 Email: info@sumaiansin.net



支援制度紹介②【宮城県制度】（みやぎ避難者帰郷支援センター）

「みやぎ避難者帰郷支援センター」は、静岡県浜松市で「NPO 法人 地域づくりサポートネット」が宮城県から委託を受けて平成 27 年 7 月から運営しています。

宮城県から中部地区 10 県（愛知県・静岡県・岐阜県・三重県・福井県・石川県・富山県・新潟県・長野県・山梨県）に避難している方々への支援拠点として、復興状況や住宅情報の提供、電話での相談受付や相談会を開催しています。また、支援センターでは宮城県の新聞「河北新報」や各自治体の広報誌などを閲覧することもできますので、お近くにいらした際にはぜひお立ち寄りください。

平成 28 年度は愛知県・静岡県・石川県・福井県・岐阜県で延べ 6 回の相談・交流会を開催し、宮城県職員からの情報提供や支援センタースタッフが視察研修で訪れた女川町や石巻市などの復興の様子を映像でお伝えしました。故郷の情報には皆さん関心が高く、避難前に住んでいた地域の映像を見て懐かしく感じるとともに、震災で様変わりした風

景や復興した新しいまちの様子に、さまざまな思いを巡らせていました。

ご参加いただいた方からは「久しぶりに故郷の言葉で話ができ嬉しかった」「避難先で頑張っている方々と交流して元気がでた」などと嬉しい感想をたくさんいただきました。今年度も愛知県・福井県・静岡県で相談・交流会を開催する予定ですので、ぜひご参加ください。詳細は郵便等でお知らせします。

～フリーダイヤルを設置して電話での相談を受け付けています。～

一昨年夏には、第 2 子妊娠中の方から「避難先には親戚などはいないため、入院に備えて長女を預かってくれるところの情報してほしい」という相談を受け、子育て支援団体の紹介やサポートを行いました。昨年 2 月に長男が誕生し、家族 4 人となったため新居探しのお手伝いもして「避難先での生活に慣れてきたとはいえ不安なことはたくさんあるので、サポートしてくれる所があるのは安心」と喜んでいただきました。



＜みやぎ避難者帰郷支援センター＞



＜愛知県内での相談・交流会の様子＞

問い合わせ：みやぎ避難者帰郷支援センター

(NPO 法人 地域づくりサポートネット浜松事務所)

住所 〒430-0917 静岡県浜松市中区常盤町 133-13 2 階

受付時間 10：00～17：00（土・日・祝日休）

TEL 0120-755-455（フリーダイヤル） E-mail:miyagi-shien@shizuoka-t.net



支援制度紹介③【福島県制度】（暮らし・情報提供・相談）

福島県から避難している方々が福島県の避難元の状況を知りたい、または帰還・定住について相談したい場合、次の各相談窓口があります。まずはお気軽にダイヤルしてみてもいいでしょうか。

ふくしまの今とつながる相談室 toiro（といろ）

住み慣れた場所を離れ福島県内外へ避難されている方や帰還された方々の、さまざまな不安や問い合わせに対して、きめ細かな対応を行う相談案内窓口です。福島県の委託を受けて「一般社団法人 ふくしま連携復興センター」が運営しています。

- [福島に戻りたいけど…]
- ・住宅を探しています。
 - ・仕事の相談ができる場所は？
 - ・保育所の空き状況は？
- [避難先で…]
- ・定住について相談できる窓口は？
 - ・利用できる支援サービスは？
 - ・日常の生活相談に乗ってくれるところは？

[避難者交流会へ]福島の現状を伝える人材を県外に派遣し、情報を提供します。

相談ダイヤル：ふくしまの今とつながる相談室 toiro（といろ）

TEL 024-573-2731 開設時間 10:00～17:00（月・水・金 ※祝祭日休み）

（※電話代がかからないように「toiro」からかけ直します）

「被災者のくらし再建相談ダイヤル」

東日本大震災、福島第一原発事故により被災された皆様、避難されている皆様の帰還や生活再建に関するご相談をお受けします。

住まい、健康、子育て、就労、就学、環境など、内容に応じて、福島県で実施している各種支援策や関係機関の取組み、相談窓口の担当先をご案内します。

問い合わせ：被災者のくらし再建相談ダイヤル

TEL 0120-303-059（フリーダイヤル ※電話代はかかりません）

受付時間 9:00～17:00（月～金 ※祝日・年末年始を除く）

復興支援員

◎福島県復興支援員

県外駐在員（福島県職員）とともに避難者に対する戸別訪問や情報提供・相談対応など、避難者の個別具体的な課題に対応しています。また避難元・避難先自治体や民間支援団体等との連携・情報共有も行ないます。

TEL 福島県避難者支援課 024-523-4157

◎浪江町復興支援員（23人）

全国の7つの拠点（宮城・茨城・群馬・千葉・埼玉・愛知・福岡）から、町民のサポートをしています。浪江町の情報発信、戸別訪問、交流会開催、人・社会資源へのつなぎ。愛知県内でも2名の支援員が活動中です。

TEL （愛知県在住）080-6295-1499

愛知県拠点ブログ <http://ameblo.jp/aichikenkyoten/>



◎双葉町ふたさぼ（8名）

全町避難によりバラバラになった町民コミュニティ維持・発展のために、拠点で活動しています。コミュニティ紙『ふたぼのわ』の企画編集や SNS の運営など町からの情報提供のサポート、町民同士の交流会企画やグループ立ち上げなど、さまざまなテーマのコミュニティ形成をサポートしています。

TEL 070-5542-2713 ふたさぼブログ <https://futasapoblog.wordpress.com/>



◎大熊町復興支援員（1名）

町民のコミュニティ再構築を目的に、町民を主体としたコミュニティの立ち上げ・運営の支援等を実施。町役場いわき出張所内に設けた広域事務所を拠点に、県内外で活動しています。

TEL 大熊町コミュニティ支援広域事務所（大熊町役場いわき出張所内）：070-5581-5939

TEL 大熊町役場（会津若松出張所）：0242-26-3844

◎富岡町復興支援員（6名）

全町民が全国各地で長期にわたり避難生活を余儀なくされていますが、避難先で町民が孤立してしまうことのないよう復興支援員を配置しています。県外に避難している町民の戸別訪問や避難先地域住民とのネットワークづくりのための交流会等、町民のコミュニティ形成及び避難生活支援活動を行っています。

TEL 富岡町県外避難者支援拠点事務所：048-832-0600

※福島の復興に向けて各地で活躍する復興支援員の愛称として「ふくしま復興応援隊」が使用されています。上記の他にも、相馬市、南相馬市、川内村、檜葉町、田村市、伊達市でも復興支援員が活動しています。

問い合わせ：ふくしま連携復興センター TEL 024-573-2732（月～金 9:00～17:00）

愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンターは学生たちのボランティアや社会貢献活動をサポートする教育センターとして2016年9月に設立されました。

センターには学部、学年を問わず、さまざまな学生が訪れています。学生たちは、自分に合ったボランティアに参加したり、また、社会課題だと気付いたことに継続的に取り組み団体となっているものもあります。

東日本大震災後に、愛知県に多くの方が避難してみえました。多くの学生たちは「自分たちにも何かできることはないだろうか」と思い、募金活動、被災地に向けての支援活動などに携わりました。そして「ここ、名古屋で行える活動」として「なごやを知って、なごやを楽しんでもらおう」と「なごやであそび隊」を発足させました。

この活動では、学生たちがみなさんと一緒に東山動植物園や工場見学に行ったり、大学にてクリスマス会を開いたりしています。年4回ほどですが、学生たちは、みなさんにお会いできるのを心から楽しみにしております。

例えば、「東山動植物園に行こう！」は今年で6回目を迎えました。参加者のなかには、赤ちゃんだった頃から来てくれている小学生もいます。イベントごとのふれあいの中でどんどん成長していくお子さんたちの姿は、まるで自分の子どものようにい



<今年の東山動植物園

最後にみんなでハイポーズ！>



<インドサイへのえさやり>

とおしく見えます。どの子も学生たちと一緒にいる時間はとっても楽しそうです。

（最初は恥ずかしそうにしていたり、知っているお友達がなくて寂しげな子も、しばらく経つととびきりの笑顔になります（笑）

学生たちもみなさんに喜んでいただけるよう、依頼や事前打ち合わせのために、東山動植物園に足を運び、企画書を提出して、内容の相談をします。晴れた時や雨の時、「どんな風に過ごしたら、みんなは楽しんでくれるかな？」と、いろいろなリレーションを考え準備もします。一つの事業に学生たちの思いがいっぱい詰まっています。

6年を経過した今では、「私たちは忘れない」「風化させてはいけない」と自分たちの活動を他の学生たちに伝えたり、参加の声かけもおこなっています。今年の夏は、星が丘キャンパスにて「夏休みの学習会」も開催することになりました。参加して下さっているお子さんがちょうど小学校高学年から中学生の方が多くなり、保護者のみなさんから要望があったからです。学生たちにとっては自分の大学での学習会開催は初めてで、開催できることをとても喜んでいました。

少しでもみなさんの気持ちに寄り添えるよう、学生たちとともに続けていきたいと思っております。また、ぜひ次のイベントにご参加ください☆

交流会（ふれあいひろば小牧）

7月2日に「第14回ふれあいひろば小牧」が開催され4世帯の方に参加していただきました。今回のメニューはハンバーグ、サラダ、スープ、ゼリーです。ハンバーグは玉ねぎ、すりおろした人参も入れ、栄養バランスも考えました。3キロのひき肉を白く粘りが出るまでこねますが、なかなかの力仕事でした。「もうそろそろ大丈夫かな？」と思っても、「こねた分だけおいしくなるから、もう少し頑張るって」のボランティアさんの一言に再度奮起！！頑張るってこねたかいあって、ジューシーでフワフワのハンバーグができあがりました。もちろんソースも手作りです。キレイに盛り付けられた野菜サラダにも手作りドレッシングをかけていただきます。スープも野菜がたくさん入った優しい味です。

各人の料理のアイデアやコツを教わったり、みんなで味見をして味を決めたり、初めて会う人とも自然と会話も増え、とても良い交流の時間になります。雑談しながら、ひとつひとつ丁寧に、材料も無駄にせず「どうしたらおいしく食べてもらえる

か」を考えて毎回作っています。家庭料理だからこそ暖かさもあり、みんなの顔を見て食べる食事は良いものだと思います。食後にはスイカも食べて大満足の昼食となりました。

午後はお茶を飲みながらの懇談です。それぞれの近況を語ったり、昼食の感想やハンバーグのレシピを確認したり、嬉しい報告があったり…今回も時間が足りないうでした。忙しく過ぎる毎日には感じることはありませんでしたが、「ふれあいひろば小牧」に参加すると、少しおしゃべりになる自分に気が付きます。ふるさとの話をし、ふるさとの訛りを聞ける交流会。自然に本音が言える、安心できる場所になってきているのかな…と感じています。子どもたちも次回の開催をとっても楽しみにしています。

最後に、いつも支えていただいている愛知県被災者支援センターの皆さん、多くのボランティアの皆さんへ…

いつもありがとうございます。これからもよろしくお祈りします！！

（避難元福島県 兼森良子）



スタッフ紹介 ～ 菊池邦子 ～

支援センターのスタッフになった経緯や今の思いを紹介していきます。
第22回はスタッフの菊池邦子（レスキューストックヤード）です。

平成29年7月から支援センターでお世話になっております。愛知県最南端の小さな町、田原市伊良湖岬で生まれ育ち、小・中・高・大学まで地元の学校で学び、22歳から昨年度末に定年を迎えるまで、社会福祉協議会職員として地域福祉に関わってきました。社協職員時代、自然にも人にも恵まれた渥美半島の良さを感じていただきたくて、支援センターと協力体制で『被災者交流会 in 田原』を企画・開催してきました。地域の中で孤立する人をつくらないように、人や制度をつなぐことを仕事としてきた私が、そんなご縁もあって支援センターの一員になれたことに感謝しております。これからも、みなさんと協力しながら、真摯に仕事に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



支援センターからのお知らせ

<編集後記>

- ★三重県伊勢市が東日本大震災の被災者の方々に向けに、市営住宅の空き住戸4戸を家賃無償で入居者募集中なんだって！思わず伊勢市のホームページ(<http://www.city.ise.mie.jp/4032.htm>)のアンケートに「役に立った」と回答しました。(K.M)
- ★セミの大合唱が始まった。先日105歳で旅立たれた日野原さんは「命とは、自分の持っている使える時間。それを人のために」と。セミたちよ、超短い自分の時間をひと夏に輝やかせて。(K.T)
- ★大相撲名古屋場所の千秋楽を「溜席（砂被り）」で見ることができました。序二段の優勝決定戦は小さな力士が大きな力士を倒して最高でした。間近で聞いた横綱白鵬の39回目の優勝インタビューは準備されて慣れたものでした。その授賞式の時間のなんと長かったことか。(H.T)
- ★東京に行ったついでに新宿にある「消防博物館」に行きました。入館無料で昔の消防車なども見られて、子ども連れにはいい施設だと思いました。(J.I)
- ★福島の子どものことを思うと胸が痛みます。今年も交流事業として福島いわきから15名の小中学生が岡崎に来ます。子どもたちの笑顔が広がりますように。(E.K)
- ★めぐりあい交流キャンプに参加しました。大人はおいしいものを食べながらおしゃべり、子どもは川遊び、きもだめし、流しそうめん等々。楽しくてあっという間の2日間でした。親子共々大自然の中で癒され皆さんからパワーをもらいました。感謝しています。(Y.Y)
- ★完熟夏野菜が出揃っています。カレーにして暑さを乗り切りましょう。カルダモン・クミン・カイエンペッパー・コリアンダー・ターメリックがそろえばルーなしでも本格的な味になります。(H.I)
- ★散策中、堀川の川面に跳ねる銀の魚影に、海が近いと実感しました。名古屋は港町ですね。(T.N)
- 9月のイベントの詳細は定期便に同封のチラシをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。



あおぞらに関する
ご意見ご感想はこちら

〒460-0001
名古屋市中区三の丸3-2-1
愛知県東大手庁舎1階
愛知県被災者支援センター
TEL: 052-954-6722
FAX: 052-954-6993
Mail: aozora@aichi-shien.net